

殺虫剤の分類と特性について

農薬選定の中で、コナガ・ダニなどの抵抗性のつきやすい害虫に対して、特性の異なる殺虫剤を散布する必要がある。

下記の農薬の系統特性と主な薬剤を参考に、ローテーション防除を実施する。

1. コナガ・アオムシ・ヨトウムシ等防除用殺虫剤

①有機リン剤

- ・害虫の神経に作用して、けいれんを引き起こして死なせる。
- ・一般的な低毒性で、残効性は少ない。

主な薬剤

商 品 名	主な対象作物	特 性	使用濃度	収穫前日数	総使用回数
ジェイエース水溶剤	キ ャ ベ ツ	広範囲の野菜に効力を示す。	1,000 倍	30 日前まで	1 回
	ハ ク サ イ		1,500 倍		
エルサン乳剤	カ ブ	広範囲の野菜に効力を示す。	1,000 倍	30 日前まで	2 回以内
	ブロッコリー キ ャ ベ ツ			14 日前まで	
サイアノックス乳剤	キ ャ ベ ツ	弱齢幼虫のうちに散布する。	1,000 倍	21 日前まで	2 回以内
	ハ ク サ イ			14 日前まで	

②カーバメート剤

- ・害虫の神経に作用する点は、有機リン剤と同様であるが、有機リン剤に抵抗性を持った害虫にも効果がある。
- ・適用できる害虫の種類は、有機リン剤よりも少ない。

主な薬剤

商 品 名	主な対象作物	特 性	使用濃度	収穫前日数	総使用回数
オリオン水和剤 40	キ ャ ベ ツ	広範囲の害虫に有効。	1,000 倍	7 日前まで	4 回以内
	カ ン シ ョ			前日まで	5 回以内

③ネラリストキシン剤

- ・害虫の神経伝達を遮断して、動作を鈍くさせて死に至らせる。
- ・遅効性で、害虫の中毒から死ぬまでに時間がかかる。

主な薬剤

商 品 名	主な対象作物	特 性	使用濃度	収穫前日数	総使用回数
パダン S G 水溶剤	キ ャ ベ ツ	有機リン剤・カーバメート剤の抵抗性害虫に対して効果を示す。	1,500 倍	14 日前まで	4 回以内
	ブロッコリー			7 日前まで	3 回以内
	ハ ク サ イ				

④合成ピレスロイド剤

- ・害虫の神経をマヒさせて死なせる。
- ・上記の有機リン剤・カーバメート剤に抵抗性を持った害虫に効果がある。
- ・一般的に魚毒性が強く、池や川の近くで散布するときは注意する。

主な薬剤

商 品 名	主な対象作物	特 性	使用濃度	収穫前日数	総使用回数
ハクサップ水和剤	キ ャ ベ ツ	被害の現れていない発生初期に使用すると効果的。	1,000 倍	前日まで	5 回以内
	ブロッコリー		2,000 倍	30 日前まで	3 回以内
トレボン乳剤	キ ャ ベ ツ	接触作用により強い殺虫力を示す。	1,000 倍	3 日前まで	3 回以内
	ダ イ コ ン			21 日前まで	
	ハ ク サ イ			7 日前まで	
アグロスリン乳剤	ニ ン ジ ン	接触作用により強い殺虫力を示す。	2,000 倍	7 日前まで	2 回以内
	ネ ギ		1,000 倍		5 回以内

⑤ネオニコチノイド剤

- ・作用機作が既存剤と異なるので、有機リン剤・カーバメート剤・合成ピレスロイド剤に効きにくくなった害虫にも有効。

主な薬剤

商 品 名	主な対象作物	特 性	使用濃度	収穫前日数	総使用回数
モスピラン顆粒水溶剤	キ ャ ベ ツ	速効性と強い浸透移行性あり。	2,000 倍	7 日前まで	5 回以内
	ブロッコリー		1,000 倍	14 日前まで	3 回以内
	ハ ク サ イ				

⑥脱皮阻害剤

- ・幼虫からさなぎへの正常な脱皮を阻害し、死に至らせる。
- ・遅効性で害虫が死ぬまで時間がかかる。
- ・適用害虫は、主にりん翔目(アオムシ・コナガ)であるが、最近では、スリップス類やハモグリバエ類に効果のある剤も開発されている。

主な薬剤

商 品 名	主な対象作物	特 性	使用濃度	収穫前日数	総使用回数
ノーモルト乳剤	キ ャ ベ ツ	殺卵効果があり、耐雨性に優れ、長い残効性を示す。	2,000倍	7日前まで	2回以内
	ハ ク サ イ				
	ネ ギ				
	ブロッコリー				
	ダ イ コ ン		21日前まで		
カスケード乳剤	キ ャ ベ ツ	アオムシ、コナガ、スリップス類、ハモグリバエ類など幅広い害虫に効果がある。浸透移行性がないので茎葉の表裏に十分かかるようにする。	2,000倍	7日前まで	2回以内
	ハ ク サ イ				
	ブロッコリー		4,000倍	7日前まで	2回以内
	ネ ギ			14日前まで	3回以内
	ダ イ コ ン		2,000倍		